

NEWS Letter

2021
特別便
No.231

男女平等 日本は**120**位 —ジェンダー・ギャップ指数2021—

2021年3月、世界経済フォーラム（WEF）が、各国の男女間の格差を調査した『Global Gender Gap Report（ジェンダー・ギャップレポート）2021』を発表しました。2006年に第1回のレポートが発表されてから今年で15年目です。今回の調査では、日本のジェンダー・ギャップ指数は0.656で、順位は対象国156か国中120位。主要7か国（G7）の中では最も低い状況が続いています。

日本は「経済参画」と「政治参画」分野の順位が低く、「経済参画」は117位、「政治参画」は147位です。例えば、リトアニアとアメリカが前年から大きく順位を上げていますが、これは「政治参画」分野のサブ指標「女性閣僚の割合」を大きく伸ばした（リトアニア：0→42.9%、アメリカ：21.7→46.2%）ことが主な要因です（図表1）。

上位国・G7・近隣国の順位 【図表1】

順位	国名	指数	前年からの 順位変動
1	アイスランド	0.892	—
2	フィンランド	0.861	1
3	ノルウェー	0.849	-1
4	ニュージーランド	0.840	2
5	スウェーデン	0.823	-1
6	ナミビア	0.809	6
7	ルワンダ	0.805	2
8	リトアニア	0.804	25
9	アイルランド	0.800	-2
10	スイス	0.798	8
11	ドイツ (G7)	0.796	-1
...			
16	フランス (G7)	0.784	-1
...			
23	イギリス (G7)	0.775	-2
24	カナダ (G7)	0.772	-5
...			
30	アメリカ (G7)	0.763	23
...			
63	イタリア (G7)	0.721	13
...			
102	韓国	0.687	6
...			
107	中国	0.682	-1
...			
120	日本 (G7最下位)	0.656	1

（出典）『Global Gender Gap Report2021』より作成

ジェンダー・ギャップ指数とは

「経済参画」「教育」「健康」「政治参画」分野で男女の格差を指数化（女性÷男性）し、4つの分野を総合したもの。指数は1に近づくほど男女の格差がなく、0に近づくほど格差が大きいと判断される。

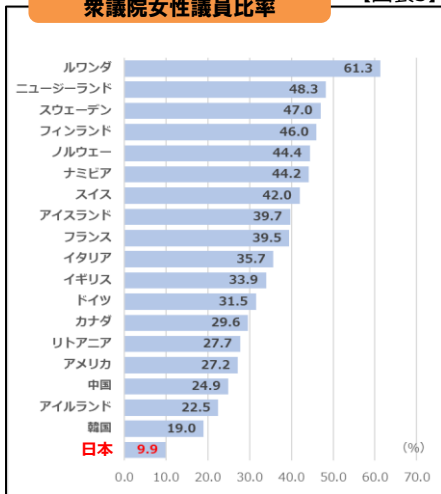
【図表2】

「政治参画」分野のジェンダー・ギャップ指数	日本			アイスランド		
	2021年	2006年	比較	2021年	2006年	比較
総合	0.061	0.067	-0.006	0.760	0.456	↑ 0.304
国会議員の男女比	0.110	0.100	0.010	0.658	0.500	↑ 0.158
閣僚の男女比	0.111	0.140	-0.029	0.667	0.380	↑ 0.287
過去50年間の国家元首の在任年数の男女比	0.000	0.000	0.000	0.883	0.470	↑ 0.413

（出典）『Global Gender Gap Report2021』より作成 「比較」は2021年から2006年の指数を引いた数値

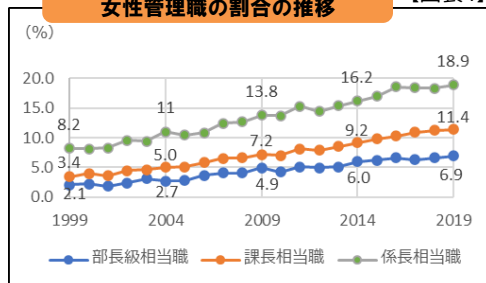
総合順位1位のアイスランドの「政治参画」分野では、レポートの発表が始まった2006年と比較してもすべての指数が改善されており、日本は低い状況から変化していないことが分かります（図表2）。また、日本の国会議員（衆議院）の女性数は464人中46人、9.9%しか女性議員がいないのが現状です（図表3）。

上位国・G7・近隣国の衆議院女性議員比率 【図表3】



（出典）列国議会同盟「国会における女性の月次ランキング」（2021年4月時点）より作成
下院又は一院制議会における女性議員割合

企業規模100名以上の民間企業女性管理職の割合の推移 【図表4】



（出典）厚生労働省「令和元年度賃金構造基本統計調査」より作成

一方の「経済参画」分野では、管理職に就く女性の割合は日本でも伸びてはいるものの（図表4）、「経済参画」のサブ指標「女性管理職の割合」は14.7%で139位。諸外国に比べて伸びも低いために、低迷しています。

日本のジェンダー・ギャップ指数を改善するには、「国会議員の女性割合」と「閣僚の女性割合」、「管理職の女性割合」が鍵となります。

